

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第560号 令和7年11月・12月



『カドゥケウス』 渡邊 哲哉

目

次

| | 頁 | | 頁 |
|------------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 1) 保健所だより | 西多摩保健所 … 2 | 7) 広報だより | 三ツ汐洋 … 13 |
| 2) 専門医に学ぶ | 本間英和 … 5 | 8) 連載企画 | 奥村 充 … 15 |
| 3) 産業医研修会報告 | 公衆衛生部 … 6 | 9) 理事会報告 | 広報部 … 16 |
| 4) 糖尿病医療連携検討会からの 今月のメッセージ | 大島 淳 … 8 | 10) 会員通知・医師会の動き | 事務局 … 18 |
| 5) 高木病院からのお知らせ | 宮本洋介・佐々木真一 … 10 | 11) お知らせ | 事務局 … 26 |
| 6) 学術講演会予定 | 学術部 … 12 | 12) 表紙のことば | 渡邊哲哉 … 26 |
| | | 13) あとがき | 古川朋靖 … 27 |

保健所だより**健康危機管理（感染症対策）に関する実践型訓練を実施しました！**

令和7年10月10日、西多摩保健所では、健康危機管理（感染症対策）に関する実践型訓練を実施しました。この訓練は「西多摩保健所健康危機対処計画（感染症編）」の実行性の確認等を目的に昨年度より行っているもので、今回は「情報共有・情報管理・リスクコミュニケーション」をテーマに、特に保健所・市町村間の情報共有と住民への情報提供を中心とした講義とグループ討議を実施しました。

訓練には、西多摩医師会理事の神應先生をはじめ、西多摩歯科医師会、西多摩薬剤師会、奥多摩病院、公立福生病院、公立阿伎留医療センター、青梅警察署、秋川消防署及び西多摩管内8市町村から御参加をいただき、西多摩保健所職員を含め総勢52名で訓練を実施することができました。

健康危機管理（感染症対策）では、平時から住民等の感染症に対する意識を把握し、感染症危機に対する理解を深めるとともに、リスクコミュニケーションの在り方を整理し、体制整備や取り組みを進めることが重要です。

訓練では、新型コロナウイルス感染症流行期を振り返りながら、東京都及び市町村間の情報共有や住民への情報提供のあり方について、グループ討議の中で提示された課題を通じて参加者間で検討し、解決策等を話し合っていました。

訓練の結果については、来年1月頃に予定している西多摩健康危機管理対策協議会第3回部会で報告、検討を行い、今後の効果的なリスクコミュニケーションの実現につなげていきます。

リスクコミュニケーションという難しいテーマにもかかわらず、部会長の神應先生には、訓練の企画段階から実施に至るまで多大な御尽力をいただき、誠にありがとうございました。

今後もこうした訓練を継続的に実施し、西多摩圏域全体での新興感染症への対応力向上に取り組んでまいります。



◀ 「情報共有・情報管理・リスクコミュニケーション」をテーマに、グループ討議を行いました。事務局が設定した課題に対し、参加者が新型コロナウイルス感染症流行期を振り返りながら、議論しました。



▶ 神應先生をはじめ参加者の皆様から、西多摩圏域におけるより良いリスクコミュニケーションのあり方について、御提案をいただきました。

市町村連携課 市町村連携担当

保健師活動コラム Vol.8

～西多摩保健所におけるアルコール依存症対策
関係者向け講演会を開催しました～

西多摩保健所で精神保健福祉業務を担当している保健師です。令和7年10月14日にアルコール依存症対策の一環として、関係者向けの講演会を開催しました。今回は、この講演会を企画したプロセスを御紹介することで、保健師が地域における保健活動をどのように展開しているかを知っていただけたら幸いです。

個別相談から受けた印象

私自身は昨年度に他の圏域の保健所から西多摩保健所に赴任し、西多摩地域の飲酒問題の状況を十分に把握できていませんでした。飲酒問題について、地区担当保健師としては、高齢者とともに働き盛りの方の相談も多く、飲酒の影響で体調を崩して働けず、経済的に困窮していたりと、家族全体の生活に大きな影響が出ている印象を持ちました。

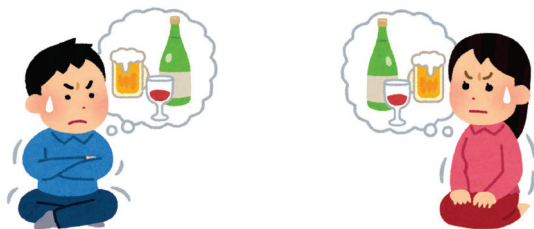
地域の状況

そこで西多摩地域全体での状況を確認するため、令和6年度に実際に対応した飲酒関連の相談約70件を分析しました。年代別に対象者の割合をみると、相談が多い順に50代が30%、60代が20%、40代が15%と、現役世代の方の相談が半数以上を占めることが分かりました。また消化器系、神経系等の疾患を合併して有していたり、さらに、幼少期にいじめや虐待を受けた経験があったり、子育てや介護の大変さを抱えていたり、様々な生きづらさを抱えていることが多いことも分かりました。

講演会の企画

このように西多摩地域の飲酒問題の現状が見えてきたことから、アルコール依存症の背景にある、生きづらさ等の問題を抱えている家族を、様々な分野の地域関係者で協力し支えていけることが大切ではないかと考えました。

そこで、今年度は講師として、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部や八王子ダルクで御活躍中の精神保健福祉士の近藤あゆみ先生をお招きし、管内8市町村の健康・子育て・福祉関係部門の職員やケアマネージャーといった、地域で相談業務に携わる職員を対象として、「悩む・困る・難しい どう対応したらいいんだろうと思うことはありませんか？」をテーマに講義とグループワークを企画しました。



当日の反応

当日は39名の参加があり、講義では飲酒問題をやめさせるのではなく、その背景にある様々な問題に寄り添う支援が大切と実感しました。グループワークでは日頃の業務で関わっている対象者を思い浮かべながら参加者同士で活発な意見交換ができました。参加者からは、「対象者の捉え方が良い方向に変わった。」「グループワークで他職種の意見を聞くことができて刺激になった。」といった意見があり、地域関係者の関心も高く盛況な会となりました。今回の講演会の結果を、また次年度の講演会の企画につなげていきます。

西多摩保健所では今後も地域の状況を分析し、健康課題解決に向けて、地域の皆様と協力してアルコール依存症対策に取り組んでいきます。飲酒問題を抱える方はなかなか相談につながらず悩みを抱え込む方が多いため、診療の場において飲酒状況が気になる方には、ぜひ西多摩保健所への相談を勧めていただけると幸いです。

講義の様子



グループワークの様子



保健対策課 地域保健第二担当保健師

医師会館休館のお知らせ

年末・年始 事務局は下記の通り休館いたします。

記

12月27日(土)～1月4日(日)まで

(通常業務は26日(金)正午までとさせていただきます。なお1月5日(月)より平常通りとなります。)

専門医に学ぶ 第175回

公立福生病院 小児科医長 本間 英和

【症例】

0歳女児

【母体妊娠分娩歴】

母体は25歳、0経妊0経産。妊娠15週、胎児超音波検査で胎児の四肢短縮を指摘され、地域周産期センターを紹介受診。胎児超音波検査、胎児CT検査で、明らかな骨折はないが大腿骨の弯曲と胸郭の低形成を認めた。また、胎児超音波検査での大腿骨長／腹囲(FL／AC) = 21／327 mm = 0.06で羊水過多は認めなかった。患者家族と十分な話し合いを行い出生後の児への積極的治療の希望を確認した。児頭骨盤不均衡のため、在胎37週5日予定帝王切開を行い出生した。分娩経過に異常を認めなかった。

【新生児情報】

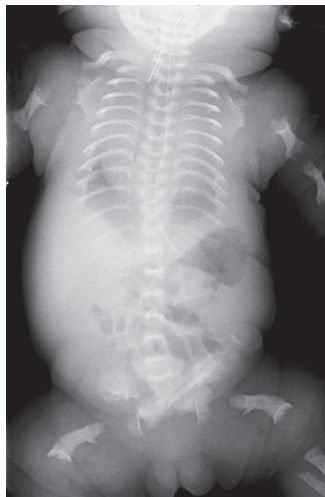
出生体重 2934g(+0.8S.D.)、身長 38.2cm(-3.9S.D.)、胸囲 30.5cm、頭囲 37.6cm(+3.6S.D.)の女児で、Apgar Score 4/5点(1/5分値)。

【出生後経過】

出生直後より蘇生を必要とし、気管挿管後人工呼吸管理を行った。全身骨X線検査(図)を行った。X線で肺低形成を診断する数値的な定義はないが、肺容積は非常に狭小であり重度の肺低形成と診断した。人工呼吸管理(HFO：日齢0-21、SIMV：日齢21-死亡時)を行い、経管栄養を併用した。在宅人工呼吸管理へ向けて日齢96に気管切開術を実施した。退院へ向けては、児の全身状態の安定化に加え社会的背景を考慮に入れたサポート体制の構築が重要と考え、院内、院外が多職種のスタッフで繰り返しカンファレンスを行い、児が家族の一員として家での時間をより多く過ごせる体制づくりを目標とした。

3～5日間の一時退院を3度行った後、生後10か月に在宅人工呼吸、経管栄養を併用し退院した。その後、児は呼吸状態の悪化と母親の精神疾患の悪化、家庭事情により入退院を繰り返し、3歳8か月で絞扼性イレウスにより死亡した。

図. 重度の扁平椎、骨盤の發育不全、骨幹端の flaring と cupping、古い電話の受話器(old-fashioned telephone receiver shaped)のように短く曲がった大腿骨を認める。



【問題】

診断名は何か？

解答と解説

【解答】

タナトフォリック骨異形成症 I 型

【解説】

タナトフォリック骨異形成症 (thanatophoric dysplasia: 以下 TD) は、厚生労働省の指定難病 275 に指定されている疾患であり、これまで致死性骨異形成症と呼ばれ致死的骨系統疾患の一つと認識されていた。しかし、合併する肺低形成への適切な呼吸管理による長期生存例の報告が示され、必ずしも「致死性」ではあるとは限らないことが分かり、また、患者家族へ配慮するために、骨系統疾患の国際分類 2010 年改訂版の和名病名が「致死性骨異形成症」から「タナトフォリック骨異形成症」へと変更された。

出生は 2～9 万人に 1 人程度と推定され、全国に 100 人程度といわれている。

病型は I 型と II 型に分類され、I 型は弯曲した大腿骨を伴う著明な四肢長幹骨の短縮が特徴的。また II 型はまっすぐな大腿骨を伴い、I 型よりも短縮の程度は軽度のことが多く、一方でクローバー葉頭蓋 Kleeblattschaede と呼ばれる側頭部が突出した特徴的な頭部が認められる。クローバー葉頭蓋はまれに I 型でも認められることがある。I 型と II 型に共通する特徴は、短肋骨、胸郭低形成、巨大頭蓋、前頭部突出や鞍鼻など独特な顔の特徴、短指症、四肢短縮により相対的に余剰となった皮膚のひだ等がある。

疾患の原因は線維芽細胞増殖因子受容体 3 遺伝子 (fibroblast growth factor receptor 3 gene: FGFR3 遺伝子) の変異によるもので、原因となる変異は、I 型 TD では 90% 以上、II 型 TD ではほぼ 100% 変異を認める。TD は常染色体優性遺伝であるが、罹患者の大多数は FGFR3 の突然変異である。

確定診断は出生後の単純レントゲン診断によるが、FGFR3 の遺伝子診断による確定診断も可能。出生前では超音波検査が中心で、必要に応じて胎児 CT や遺伝子診断を行う。

本疾患に関しては、長期生存例や、本邦での全国調査結果が報告されてきたが、本疾患への対応の明確な指針はなく、施設ごと、症例ごとの対応がなされているのが現状であり、現時点ではそれ以上の対応はまだ難しいと考える。今後、本疾患への理解を深め、対応を確立するためには、本報告を含む症例報告や胎児・新生児骨系統疾患の診断と予後に関する研究班による症例、予後データの更なる蓄積が必要である。

東京都医師会・西多摩医師会産業医研修会 開催報告

西多摩医師会公衆衛生担当部長 神應知道

2025 年 7 月 27 日 (日)、市立青梅総合医療センター講堂にて「西多摩医師会産業医研修会」を開催しました。本会は、地域の産業医・医師が最新の知見と実践的なスキルを学ぶ研修の場として毎年実施されており、今年度も大変充実した内容となりました。

◆企画について

今年は、私が初めて企画を担当し、「ぜひ西多摩の先生方に学んでいただきたい先生をお呼びする」という想いで準備を進めました。幸いにもご縁のある 5 名の先生方に快くご登壇いただくことができました。なお、柳沢正史先生 (筑波大学/S' UIMIN) のご都合により、睡眠に関する講演は私が担当し、自施設での研究結果を交えてお話しさせていただきました。

◆講演内容

今年度は「健康経営」「メンタルヘルス」「睡眠」「禁煙支援」「ウェルビーイング」といった職場の健康づくりに直結するテーマを取り上げました。

- 石川雄一先生（日本ヘルスサイエンスセンター代表）
「企業とともに創る健康職場 一実地で学ぶ！未来の産業医に必要なスキルと実践力―」
健康とは病気を減らすだけでなく、元気を増やすことも大切であるという考え方を紹介。ロールプレイを通して「健康教育」ではなく「健康学習」を体験し、参加者からは「もっと前に学んでおきたかった」という声が多く寄せられました。
- 杉山葉子先生（ヘルスシード合同会社）
「メンタルヘルスの未来を支える 一実地で学ぶ予防と対策の最前線―」
メンタル不調のサインやセルフケアについて意見交換を行い、ロールプレイを通じて現場で実践可能な支援スキルを学びました。
- 望月友美子先生（新町クリニック）
「新型タバコ時代の禁煙革命～産業保健からの最新アプローチ～」
健康寿命延伸における禁煙の役割や「タバコフリー活動」の現状を紹介し、安全衛生における禁煙対策の重要性
- 神應知道先生（新町クリニック）
「眠りを測る時代へー睡眠の見える化と産業医がつくるウェルビーイング―」
睡眠が心身に及ぼす影響、睡眠時間や質と企業利益の関連を解説。在宅睡眠脳波計を用いたデータから、睡眠の「見える化」によるウェルビーイング向上の可能性を示しました。
- 前野隆司先生（慶應義塾大学名誉教授／武蔵野大学教授）
「職場のウェルビーイングを科学する 一産業医ができる幸福度向上と組織デザインの実践―」
幸福度の高い職員は生産性・創造性が高まり、欠勤や離職も減少するというエビデンスを紹介。「幸福学」や「自利利他円満」の考え方をもとに、すべての人が幸せであるために産業医が果たす役割を語っていただきました。

◆まとめ

本研修会では、国の骨太方針にも盛り込まれた「ウェルビーイング」を軸に、産業医としての新しいマインドセットを学ぶことができました。参加者からは「明日から現場で実践したい」「社員への伝え方を工夫したい」といった声が寄せられ、大変有意義な学びの場となりました。アンケートでは、「年2回の開催」「働き方改革と働きがいのバランス」「職場復帰の実例」「更新研修の項目」「子育て世代への支援」「職場の人間関係の解決策」など、次年度への期待や要望も多く寄せられました。

◆謝辞

今回、初めての場所で初めての幹事としての挑戦となりましたが、西多摩医師会事務局、市立青梅総合医療センターの皆様をはじめ、多くの方々のご協力により無事に開催できました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会

平素より当検討会事業にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。当検討会では2018年度より会員の皆様に、医師会報を通して糖尿病診療に役立つヒントを得て頂ければと願い「糖尿病診療を再考する症例」をテーマに【糖尿病専門医による症例提示】を企画しております。今回は、市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 大島淳先生に症例提示をお願い致しました。今年度も糖尿病専門医による示唆に富む症例を提示していく予定です。(11・12月号、1・2月号、3・4月号)皆様の日頃の糖尿病診療の一助となりましたら幸いに存じます。

【症例提示】

市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 大島 淳

【症例】 80歳代、女性

【主訴】 全身状態不良、橈骨動脈触知不良

【既往歴】 脳出血、てんかん、高血圧症、心不全、糖尿病

【現病歴】 50歳頃から健康診断で高血糖を指摘されていたが、病院を受診していなかった。58歳時に脳出血を発症し、その際に経口血糖降下薬を開始されたが、その後血糖コントロールが改善したことにより内服中止となっていた。X年3月頃から嘔吐が度々出現しており、体調不良を認めていた。同年4月初旬に訪問看護師が来訪したところ、橈骨動脈触知不良を認め救急要請となった。脳出血後は要介護4で発語はなく、息子と2人暮らしであった。食事摂取不良のため胃瘻からラコールが間欠投与されていた。

【入院時現症】

JCS100、BT34.9℃、BP測定不能、HR106回/分、SpO2測定不能

従命入らず、四肢の拘縮高度、明らかな皮疹なし、足背動脈触知不良、末梢冷感あり

ECG) HR102bpm、明らかなST変化なし

Xp) 心拡大あり、CP angle 左鈍、明らかな陰影像なし

CT) 頭蓋内出血、頭蓋骨骨折なし、左肺野に浸潤影あり、両側少量胸水貯留、肝・脾・脾に異常所見なし、腸管拡張なし、free airなし

L/D) WBC 7130/ μ L、Hb 14.0g/dL、Plt 16.1万/ μ L、Alb 2.7g/dL、BUN 105.1mg/dL、Cre 1.86mg/dL、Na 163mEq/L、K4.6mEq/L、Cl 123mEq/L、CRP 4.58mg/dL、随時血糖 1428mg/dL、HbA1c 8.6%、pH 7.258、PCO2 26.7mmHg、PO2 109.0mmHg、HCO3- 11.5mmol/L

尿ケトン体陰性

【problem list】

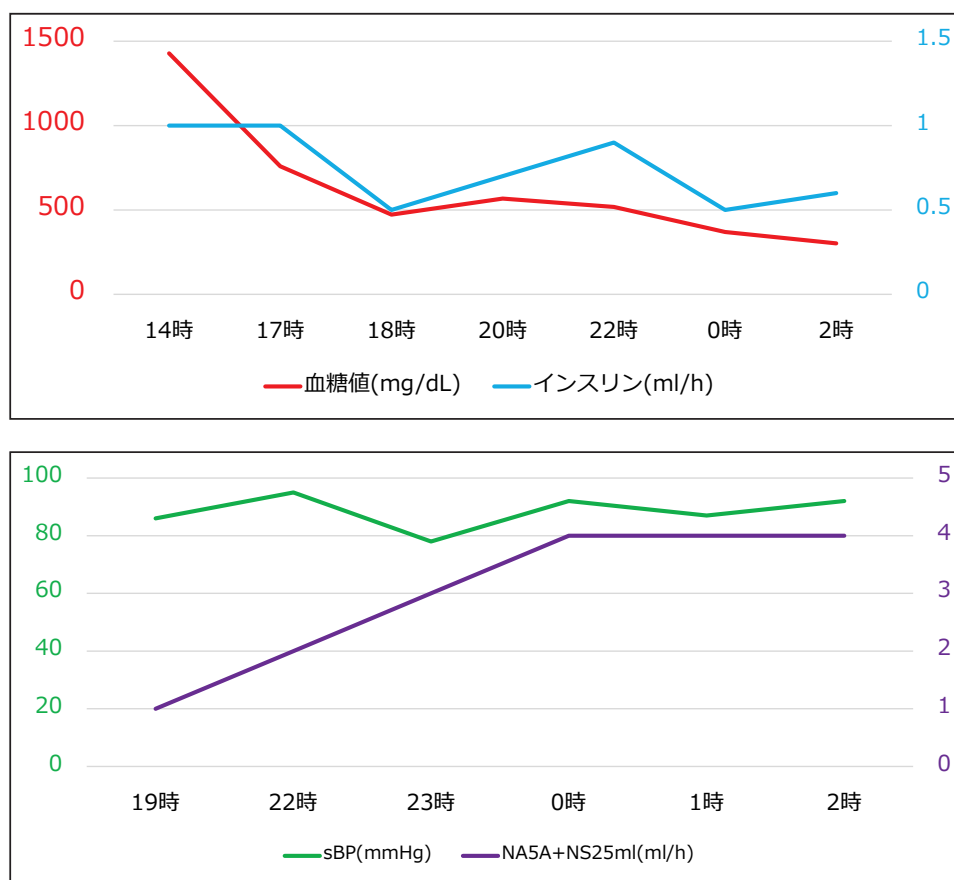
1 高血糖高浸透圧症候群 (HHS)

2 誤嚥性肺炎

【その後の経過】

随時血糖値 1428mg/dLと著明高値であり、脱水所見を認めた。元々高血糖で推移していたが、感染を契機にHHSへ至ったと思われた。そのため、大量補益ならびにインスリン持続静注を開始し、誤嚥性肺炎に対しては酸素2L投与にてSpO2 95%となり、SBT/ABPC3g/日divを行った。血糖値は補液並びにインスリン持続静注により速やかに低下したが、急激な血糖低下は脳浮腫などの合併症を引き起こすリスクがあるため、インスリンの速度を低下。その後は血糖値50-75mg/dL/h前後を目標にインスリン速度を調整した。

また、大量補液により血圧は一時sBP120mmHg前後まで上昇したものの、その後徐々に低下した。19時にはsBP86mmHgまで低下したため、ノルアドレナリン持続静注を開始した。しかし、血圧は安定せずノルアドレナリン漸増したものの、sBP80-100mmHg前後を不安定に推移した。



その後血糖値は徐々に低下したが、全身状態は悪化し続け、入院翌日の午前3時を過ぎたところから血圧・脈拍が低下し、その後死亡確認となった。

【高血糖高浸透圧症候群】

高血糖高浸透圧症候群は2型糖尿病患者が多くを占め、感染症を契機に発症する例が多いが、それに加え水分を摂取出来ない環境・状態が発症要因の1つとなっている。特に口渴を自覚出来ない高齢者や、自身で水分摂取が出来ないADLなどがHHSを発症する確率を上げるとされている。死亡率は約16%ともいわれ、早期に治療を開始しなければ命に関わる危険な状態となりうる疾患である。

本症例も血糖高値は元々あったものと思われるが、そこに誤嚥性肺炎が起きたことをきっかけにHHSが発症したものと考えられた。HHSは基礎疾患や合併症の存在が予後を左右するとされているが、高齢かつ脳出血の影響でADLは全介助など元々の全身状態が良好とはいえないこと、早期の治療介入が出来なかったことなどが救命出来なかった要因と思われる。

また、HHSの所見として脱水に伴う多飲や吐き気などの消化器症状の他、全身倦怠感や皮膚乾燥、意識障害などが出現する。しかし、元々ADLの低下や認知機能低下が存在する患者では、これらの症状を伝えることが出来ず、また他者からも普段と比べて微差であるとされ、受診が遅れがちになることもある。

HHSは早急に治療を開始しなければ致死的な事態を起こす危険な疾患であり、以前糖尿病を診断、もしくは薬物治療を行われていた場合は、現在治療がされていなくともHHSを鑑別にあげることがあると思われる。

高木病院 青梅脊椎センターからのお知らせ

高木病院 副院長

整形外科部長

青梅脊椎外科センター センター長

宮本洋介

平素より大変お世話になっております。

高木病院『青梅脊椎外科センター』センター長 宮本洋介です。

今年7月より富永泰弘先生が当院に赴任となり、脊椎外科がパワーアップいたしました。富永先生は平成元年に聖マリアンナ医科大学を卒業され同大学病院で長く脊椎外科の研鑽を積まれた経験豊富なスペシャリストです。

この2年間、脊椎外科の常勤医が私ひとりだったため戦力不足で、ご紹介いただきました患者さまをお断りせざるを得なかったり、他院へ転送しなければならないケースなどもあり、『青梅脊椎外科センター』の名に相応しくない場面もありましたが、富永先生の着任により今後は益々脊椎外科診療を拡張して参る所存でございます。脊椎外科領域の患者さまは常時受け入れ可能な体制となっておりますので、いつでもご紹介ください。

なお低侵襲の内視鏡手術（BESS：Biportal Endoscopic Spine Surgery または UBE：Unilateral Biportal Endoscopy）も一昨年より導入し患者さまにご好評をいただいております。

BESS/UBE は現在、アジアを中心に全世界の脊椎手術の主流になりつつある術式で、MED など従来の one portal の内視鏡下手術と大きく異なり2孔式（biportal）でカメラを挿入する port と手術機器を挿入する port を別々に設置することで、手術の操作性が格段に増し、生理食塩水を還流させることで非常に良好な視野を得られます。手術創は7～8mm の創が2か所となり非常に低侵襲です。現在は腰椎椎間板ヘルニア摘出および腰部脊柱管狭窄症に対する1椎間の除圧術に限定しておりますが、今後徐々に適応を拡大していく予定です。術後数日で退院出来ないことはないのですが、当院では早期退院によるデメリットを減らすため入院下で十分なりハビリを行い、術後7～10日程で退院していただくスケジュールとしております。

【当院で行っている主な術式】

頸椎椎弓形成術・椎弓切除術

頸椎前方固定術

頸椎椎間孔拡大術

腰椎椎弓切除術（棘突起縦割式）・開窓術

腰椎椎間板ヘルニア摘出術（BESS/UBE）

低侵襲での椎体固定術：経皮的椎弓根スクリュー PPSF + PLIF/TLIF

椎体骨折に対する BKP（balloon kyphoplasty：経皮的椎体形成術）

LLIF：XLIF, OLIF

脊柱後側弯症に対する変形矯正固定術：胸椎～腸骨の矯正固定

神経鞘腫や髄膜種などの硬膜内腫瘍摘出術

また腰椎椎間板ヘルニアに対するヘルニコア注入など保存治療にも力を入れています。

当科では今後も患者さまへの丁寧な説明を心掛けると共に、手術治療に関しては引き続き安全性と確実性・低い再発率と再手術率・低い合併症率・量より質（手術件数より治療の質を重視）・そして術後も徹底的にフォローすることを優先事項として診療して参ります。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

高木病院における睡眠時無呼吸症候群に対する取り組み

医療法人社団仁成会 高木病院

内科 佐々木真一

近年、睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、単なる睡眠障害にとどまらず、高血圧や心房細動、脳卒中、糖尿病などの心血管系疾患や代謝疾患と深く関わる事が明らかとなり、早期診断・治療の重要性が強調されています。しかしながら、国内に推定 900 万人の有病者が存在する一方で、実際に診断と治療を受けている方は、ごく一部にとどまっています。

SAS は、肥満や加齢、上気道の形態など複数の要因により発症し、特に中高年男性に多くみられます。典型的な症状としては、いびきや睡眠中の無呼吸、日中の眠気、集中力の低下などがありますが、患者自身が自覚しにくいことが多く、周囲からの指摘が診断のきっかけとなることも少なくありません。

当院では、自宅で簡便に実施できるスクリーニング検査（携帯用睡眠時無呼吸検査装置）から、入院で行う精密な睡眠ポリグラフ検査（PSG）まで幅広く対応しています。

PSG 入院は夕方から翌朝までの半日入院で、可能な限り社会生活へ支障をきたさないように配慮しています。診断後は持続陽圧呼吸療法（CPAP）を中心とした治療を行い、生活習慣改善の指導も併せて実施しています。治療により、日中の眠気の改善だけでなく、高血圧や心血管系疾患リスクの低減も期待され、実際に降圧薬や血糖降下薬の減量につながる症例も経験されます。

地域の先生方におかれましては、いびきが強い、日中の過度な眠気がある、治療抵抗性高血圧を有する、スクリーニング検査で診断や重症度が確定しない、といった患者様がおられましたら、SAS を念頭に置き、是非当院内科へご紹介いただければと存じます。早期発見と適切な治療は患者様の QOL 向上のみならず、心血管イベントの予防にもつながります。今後も、地域の先生方と連携を密にし、SAS の診療を通じて、地域住民の健康増進に貢献してまいりたいと考えております。何卒よろしくようお願い申し上げます。

・睡眠時無呼吸症候群対応の内科外来・

・月曜日：午前）南医師・佐々木、水曜日：午前）佐々木、午後）南医師、木曜日：午後）南医師

・受付：午前枠 午前8時～12時（診療開始は午前9時）、
午後枠 午後1時～4時30分（診療開始は午後2時）

◇学術講演会予定

令和 7. 10. 17

| 開催日 | 開始～終了 時間 | 会 場 | 単 位 数 | CC | 集会名称・演題 | 講師（役職・氏名） |
|--------------|---------------------|---------------------------------------|-------------|----------|---|---|
| 11/14 (金) | 19:30 ～ 20:30 | Web 配信 | 1.0 | 09 11 | 学術講演会 ＜講演＞ 演題 1「エンレストの使用経験か らの考察」 演題 2「地域の心不全と高血圧患 者の明日のために今できること」 | 座長：(医社) 淳心会 ゆだクリニック 院長 湯田 淳 先生 市立青梅総合医療センター 循環器内科 医長 長嶺 竜宏 先生 座長：(医社) 仁成会 高木病院 院長 南 明宏 先生 野本医院 院長 野本 英嗣 先生 |
| 11/18 (火) | 19:50 ～ 20:30 | 市立青梅 総合医療 センター | 1.0 | 08 | 学術講演会 「第 37 回西多摩呼吸器懇話会」 ＜講演 1＞ 「胸部 X 線写真読影・解説」 ＜講演 2＞ 「小児、成人マイコプラズマ肺炎の 最新知見と診療の実際」 | 座長：市立青梅総合医療センター 呼吸器内科 部長 大場 岳彦 先生 市立青梅総合医療センター 呼吸器内科 甲斐 文彬 先生 呼吸器内科 大友 悠太郎 先生 杏林大学医学部 呼吸器内科学教室 臨床教授 皿谷 健 先生 |
| 11/19 (水) | 19:30 ～ 20:10 | 市立青梅 総合医療 センター | | | 学術講演会 「第 56 回青梅心電図勉強会」 演題「未定」 | 座長：野本医院 院長 野本 英嗣 先生 演者：未定 |
| 11/20 (木) | 19:15 ～ 20:30 | Web 配信 又は、 市立青梅 総合医療 センター | 1.0 | 77 | 学術講演会 「第 7 回青梅骨粗鬆症ネットワーク 勉強会」 【オープニング】 「青梅市における骨密度検査の現状 と課題」 【特別講演】 「骨粗鬆症性椎体骨折診療 Up to date ～現状と課題を知る～」 | 市立青梅総合医療センター 整形外科 部長 加藤 剛 先生 座長：市立青梅総合医療センター 整形外科 部長 加藤 剛 先生 大阪府済生会中津病院 整形外科部長 星野 雅俊 先生 |
| 11/27 (木) | 19:00 ～ 20:15 | Web 配信 又は、 西多摩 医師会館 | | | 学術講演会 「SAS 地域連携セミナー in 多摩」 【一般演題】 「当院における睡眠時無呼吸症候群 に対する取り組み」 【特別演題】 「生活習慣病管理における睡眠時無 呼吸診療と医療連携の提案」 | 座長：(医社) 新町クリニック 院長 神應 知道 先生 (医社) 仁成会 高木病院 内科 佐々木 真一 先生 座長：(医社) 仁成会 高木病院 院長 南 明宏 先生 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院睡眠呼吸器科 医長 富田 康弘 先生 |
| 12/2 (火) | 19:00 ～ 20:00 | Web 配信 | 1.0 | 46 | 学術講演会 「間質性肺炎の病診連携を考える会」 ＜講演＞ 「間質性肺炎って、よくわからな い…。～専門医が大切にする診 療のポイント～」 | 座長：市立青梅総合医療センター 呼吸器内科 部長 大場 岳彦 先生 市立青梅総合医療センター 呼吸器内科 副部長/外来治療センター長 本田 樹里 先生 |

広報だより



ショパン国際ピアノコンクール

ちひろメンタルクリニック 三ツ汐 洋

今ちょうどショパン国際ピアノコンクールがポーランドのワルシャワで開かれています。ショパン国際ピアノコンクールは5年に1度の開催で、16歳から30歳までという年齢制限があり、今回19回目となります。ピアノのコンクールの最高峰の1つですが、私は、これまで特に注目してみたことはありませんでした。今回なぜ気になったかというと、実は1番下の息子が最近ショパンの曲を発表会で弾いたからです。うちの子供たちは4人ともピアノを習いましたが、上の3人は大きくなるにつれて、だんだんピアノをやらなくなってしまい、今やっているのは1番下の小学4年生の息子だけです。ショパンのポロネーズの第11番を弾いたのですが、なんとその曲は、ショパンが7歳の時に作曲したものだということです。モーツァルトは神童だとは知っていましたが、ショパンお前もそうだったのかという感じです。私は楽器も何もやったことがなく、楽譜もよく読めませんが、やたらとたくさん音符が並んでいる譜面を見て、どうしてこんな複雑なものを7歳の子が書けるのかなと驚いてしまいました。

さて、発表会ですが、土曜日の午後に行われたため、残念ながら私は診療の関係で見に行けませんでした。妻によると、まあ何とかそれなりに弾けたということでした。しかし、後日、本人の日記を読んで大笑いしてしまいました。

子供の学校では、週に1回、日記を書くことが決められています。内容は何でも良いのですが、最近うちの子はエヴァンゲリオンにはまっていて、そのことについてまず書いていました。そして日記の最後には、必ず先生に対して質問をしているのですが、「先生はエヴァンゲリオンを見たことがありますか」と言う質問でした。先生はいつも真面目に返事を書いて下さっていて、「大学生の時にテレビ放送があつてとてもはりました。音楽がよかったです。ガンダムに次ぐ人気でした」と答えてくださっていました。

その次の日記が発表会についてのもので、抜粋すると「いよいよ自分の番になり、どうにでもなれと言う気持で弾き始めました。僕は、エヴァンゲリオンの渚カヲルになったつもりで弾きました。渚カヲルがピアノを弾くシーンがあつて、それがかつよかったからです。渚カヲルになりきったおかげか、まあまあうまく弾けました。先生は、何かになりきったことはありますか？」というものでした。驚きの内容で、まさか息子がそんな気持でピアノを弾いていたとは、うちの家族の誰も想像だにしませんでした。いや世界中探しても、そんな気持でピアノを弾いている人なんて誰もいないと思います。しかも、それに対しての先生のお返事が神回答でした。「先生

は小さい頃からサッカーをしていたので、よくサッカー選手になりきっていました。キャプテン翼という漫画がはやっていたので、好きな登場人物になりきり、必殺シュートのまねをしていました」というものでした。なんて素敵なお返事なんでしょう！！先生ありがとうございます。

というわけで、ちょっと「ショパン」と言う言葉に敏感になっていて、ショパン国際ピアノコンクールが目に入ったわけです。コンクールは、一次予選、二次予選、三次予選とあって、ようやく本選になります。約 80 名から始まって、1 回ごとに半分に減って行って、本選には約 10 人が残ることになります。今回は 84 名から始まって最後は 11 名が本選に残り、今現在進行中です。今回、日本からは 13 名が参加し、本選には 2 名が残っています。最終結果が出るのが 10 月 21 日で、奇しくもこの西多摩医師会報の編集会議の日です。最終結果がギリギリ載せられるかもしれません。

そんなにクラシックは聴かないのですが、たまたま内田光子のモーツァルトの K.331 を聴いて、すごく気持ちよかったので好きになりました。今回初めて内田光子が第 9 回のショパン国際ピアノコンクールで 2 位になっていたことを知りました。私は楽器もやったことないし、よくわからないのですが、「何か気持ちいい」というのが判断基準になります。ここでこのテンポでこういう音が聞きたいなと思った通りを聞けるとなんだかスッキリします。

今、注目しているクラシックの音楽家があります。バイオリンで村田夏帆さんです。音楽家とはいっても、まだ 18 歳、たしか高校 3 年生です。しかし、その音を聞くと、もっとずっと聞いていたいと思ってしまい、ついつい時間が経つのを忘れてしまいます。判断基準はやはり気持ち良さです。皆様もぜひ一度聞いてみてください。

追記

間に合いました。最終結果が本日出ました。第 1 位はアメリカの Eric Lu、第 2 位はカナダの Kevin Chen、第 3 位は中国の Zitong Wang、そして第 4 位に日本の桑原志織さんと中国の Tianyao Lyu がはいりました。もう一人の日本人の進藤実優さんは残念ながら 6 位までには入られませんでした。

連載企画



スイスの山旅

羽村市 小作駅前クリニック 奥村 充

2. グリンデルワルトからファウルホルン

グリンデルワルトからゴンドラに乗り、フィルス
ト (2184m) に向かいます。

フィルスで下車するとアイガーをはじめスイ
スの山々の大展望に出会えます。

フィルスには、ジップラインや断崖絶壁に作ら
れた展望台もあり、多くの観光客でにぎわって
います。フィルスから山上湖のバッハアルプゼー
へハイキングコースを進みます。ハイキングコ
ースは、牛がいっぱい放牧されており、カウベル
の音色を聞きながら歩きます。高山植物のお花
畑もあり、アルプスの眺めも良く、アップダウ
ンもあまりなくバッハアルプゼーまでなら比較
的楽なコースです。バッハアルプゼーの近くで、岩
の上でじゃれあっているマーモットをみつけま
した。少し進むとバッハアルプゼーに到着です。バ
ッハアルプゼーは、アルプスの宝石と言われる湖
で、天気が良く風がなければ、湖面にアルプス
の山々を映し出します。ここから先ファウルホ
ルン (2681m) までは、登山道になり、人が少
なくなります。ファウルホルンへの登りの途中に避難
小屋が2か所あります。このあたりからの眺め、
特にバッハアルプゼーとその先に見えるトンガ
リの山シュレックホルン (4078m) は、絵にな
る素晴らしい景色です。旅行会社のパンフレット
にも採用されています。急坂をもうひと頑張り登
るとファウルホルンに到着です。ファウルホルン
の山頂直下にはファウルホルン小屋があります。山
頂は、360°の大展望で、アイガー等のアルプ
スの山々と逆方向は、エメラルドグリーンのブリ
エンツ湖が見える大展望です。ファウルホルン小
屋で一泊し、翌朝は眼下が一面の雲海で、雲海に
浮かぶアルプスの山々は素晴らしい景色でした。

バッハアルプゼー (湖)
とシュレックホルン雲海に浮かぶアルプスの峰々
(ファウルホルン山頂から)眼下に見えるブリエンツ湖
(ファウルホルン山頂から)

理事会報告

★ Information

9月定例理事会

令和7年9月9日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤(幸)・古川・井上・三ツ汐・湯田・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城)

報告事項

1 会長報告

7/29に開催された東京都地域医療構想調整会議で、以下の意見が報告された

- ・西多摩地域の病院において、軒並み病床が空いている状況で、単なる人口減少が要因でなく明確な原因が不明なこと
- ・高齢化の進んでいる地域であり、且つ、独居化も進んで貧困化を感じるようになったこと

在宅医療推進強化事業（在宅医療安心サポート事業）について

現在、取組んでいる東京都補助金事業の在宅医療安心サポート事業は令和7年度で終了となるが、令和8年度から、各市町村が主体となる市町村在宅医療推進事業として継続されるが、8市町村の予算決定はされてなく以下の点が説明された

- ・西多摩在宅医療安心サポート事業の継続に向けて、8市町村が足並みを揃えて当事業への参加〔来年度予算申請〕をしてもらえるよう、行政からの依頼「実績・資料等の提出」「看護ステーションへのアンケート」等を実施すること

2 各部報告

総務部

- ・11月8日多摩地区医師会懇話会の開催日程について報告され、役員（理事・監事）の出席が奨励された

公衆衛生部

- ・タバコフリー西多摩の活動にて、西多摩地域禁煙外来を実施しているクリニックのリストの作成を検討していることが報告された

総務部〔福利厚生担当〕

- ・令和7年度忘年クリスマス会の開催日程等が報告される
日時：令和7年12月3日(水)・19:00～、場所：あきる野ルピア

学術部

- ・9/5に開催された多摩医学会役員会にて、西多摩医師会より一般演題1題、特集演題1題の講演が決定したことが報告された

学校医部

- ・8/29に開催された学校医部会で、令和8年2月に西多摩学校保健連絡協議会を開催、講師を選定中であることが報告された

3 地区会報告

○青梅市

8/29 移動理事会開催

○福生市

8/21 緊急救護所福生ブロック会議開催、8/26 納涼会開催、9/2 定例理事会開催

○羽村市

8/31 東京都羽村市日の出町合同総合防災訓練へ参加、9/6 納涼会開催

○あきる野市

9/8 定例会開催

4 その他報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、正会員1名、準会員10名の入会申請が紹介・報告され承認された
また、正会員1名、準会員9名の退会と異動届2件が報告された

協議事項

1 西多摩地域保健医療協議会「地域医療システム化推進部会」専門委員就任の承認について（依頼）

資料により標記依頼事項について説明、依頼の通り柳田和弘先生の就任が可決承認された

2 令和7年度新型コロナウイルス感染症予防接種事業に係る自己負担額及び接種委託料の変更について（依頼）

資料により標記依頼事項について説明、依頼の通り自己負担額・接種委託料の変更が可決承認された

9月定例理事会

令和7年9月24日（水）

森寿司（移動理事会）

（出席者：進藤（幸）・古川・進藤（晃）・井上・三ツ汐・湯田・神應・松本・松村・高橋・宮城）

報告事項

1 都医地区医師会長連絡協議会報告

9/19 に開催された標記協議会における都医からの伝達事項等について

2 各部報告

特になし

3 地区会報告

特になし

4 その他報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、準会員1名の入会申請が紹介・報告され承認された
また、準会員2名の退会が報告された

協議事項

特になし

その他

インフルエンザワクチン、新型コロナウイルスワクチン（65歳以上）接種に関するパンフレット（接種促進）の配布について

資料により、内容が説明されたが、記載内容を検討する必要性があることから配布の決議は見送られた

会員通知

- 会報 9-10月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）（西多摩医師会 HP 会員ページ、会員メニュー内（会員専用）に掲載）
- 学術講演会（10/9、10/10、10/15、10/21、10/29）
- 産業医研修会（八王子医師会 10/4）
- ” （日本橋医師会 11/16）
- ” （墨田区医師会 11/16）
- ” （東京大学医師会 12/21）
- ” （北多摩医師会 11/10）
- ” （江戸川区医師会 12/6）
- ” （帝京大学医師会 1/10、11、17、18）
- 健康スポーツ医再研修会（墨田区医師会 11/16）
- 訃報（福生市（医社）光輝会 ひかりクリニック 理事長 土屋 輝昌先生 御母堂 土屋 和子様）
- 第 23 回西多摩医師会臨床報告会のお知らせ

せ（10/16）

- 西多摩医師会「市民健康講座」（11/29）開催案内（ポスター）
- 西多摩地域脳卒中医療連携「症例検討会」のお知らせ（11/10）
- 西多摩地域糖尿病医療連携推進事業「市民公開講座」開催案内（11/22）開催案内（ポスター）
- 糖尿病患者さんと糖尿病予備群の方のための「糖尿病 1 日教室（於：医師会館）（10/11）、（於：公立阿伎留医療センター）（11/8）」チラシ
- 不要になった水銀血圧計・水銀体温計・水銀温度計の自主回収の実施について
- 第 58 回青梅マラソン大会開催に伴う協力について
- 禁煙外来実施状況確認アンケートのお願い
- 市立青梅総合医療センターより 医師直通電話対応医師の変更について
- 公立福生病院より 感染対策向上加算・地域連携合同カンファレンス（9/22）

- 公立阿伎留医療センターより 令和7年度第3回 AKINET+ 感染対策向上加算【地域合同カンファレンス】及び【合同訓練】について (10/21)
- 西多摩地域広域行政圏協議会より「仕事や育児を両立できる共倒れしない介護」開催案内 (11/30)
- 狂犬病ワクチン「ラビピュール」オンライン説明会のご案内
- 令和7年度第2回東京 JMAT 研修会の開催について (11/30)
- 「東京都医師会雑誌令和8年1月号(新春随想集)」について (依頼)
- インフルエンザ対策普及啓発用ポスター及びリーフレット
- 東京都の里親制度広報用ポスター
- 第99回多摩医学会講演会 (10/25) 抄録
- 都立神経病院 2025 年度診療案内
- 令和7年度「防災週間」及び「火山防災の日」について
- 防災推進国民大会 2025 の開催について
- 熱中症対策のための高齢者への見守り・声かけについて
- 日本医師会サイバーセキュリティ支援制度サポート詐欺の注意喚起のチラシについて
- 第25回医療経済実態調査(医療機関等調査)の協力依頼について
- 東京都生産性向上・職場環境等整備支援事業補助金の申請受付開始について (通知)
- スマートフォンに搭載されたマイナ保険証への対応に係る費用補助等について
- 「私たちをもっと守る、マイナ保険証(第2弾)」動画のダウンロードサイトについて
- 医療 DX に関するシステムの導入・運用に当たり活用できる事業について
- チクングニア熱等に関する注意喚起について
- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に係る注意喚起について
- 保険者からの再審査請求に係る症状詳記依頼文書への写しレセプトの添付について
- 令和7年10月以降の医療 DX 推進体制整備加算等の要件の見直しについて (10月よりマイナ保険証利用率の実績要件が引き上がります)
- 麻しん(はしか)の発生について
- 「電子処方箋管理サービスの運用について」の補足について
- 今夏の新型コロナウイルス感染症等の感染拡大に備えた保健・医療提供体制の確認等について
- 令和7年度精神科医療地域連携事業一般診療科向け研修(第2回)の開催について
- 令和7年度第3回難病医療ネットワーク医療従事者向け研修の実施について
- 麻しん(はしか)の発生について
- 東京都アレルギー疾患医療連携研修(第2回)の開催について
- 令和7年度「医療保険講習会」の開催について
- 日本在宅医療連合学会第7回地域フォーラムの開催案内について
- 「第13回東京都在宅医療推進フォーラム2025」開催のご案内について
- 令和7年度「東京都医師会 地域包括診療加算・地域包括診療料に係る研修会」の開催について
- 夏季の省エネルギーの取組について (周知依頼)
- 令和6年度販売情報提供活動監視事業報告書について
- 「特別用途食品に関する質疑応答集」の一部改正について (周知依頼)
- 日本医師会員向けキャッシュレスサービスの決済端末変更の件について
- 令和7年8月20日からの大雨に伴う災害に係る介護報酬等の柔軟な取扱い(基準緩和等)について
- 令和7年8月20日からの大雨に伴う災害により被災した要介護高齢者等への対応および被災者に係る被保険者証の提示等について
- 令和7年8月20日からの大雨にかかる災害の被災者に関する既往歴等の提供について
- 令和7年8月20日からの大雨に伴う災害の被災者に係るマイナ保険証又は資格確認書等の提示等について
- 厚生労働省委託事業「医療・介護・保育分野における有料職業紹介『適正認定事業者』

- のサービス品質に関する調査」へのご協力
のお願いについて
- 厚生労働省による個人防護具の配布の実施について（周知）
 - 保険医療機関等において本人確認を実施する場合の方法及びその留意点について（再周知）
 - 健康食品に関する安全性情報共有事業にかかる情報提供について
 - かかりつけ医機能報告制度の施行に伴う周知について
 - 難治性精神疾患に対する専門的治療研修の開催について
 - 令和7年度東京都医療機関デジタル化推進セミナー（基礎編及び応用編）の開催について
 - 令和7年度 東京都アレルギー疾患治療専門研修のご案内について
 - 医療機関受診勧奨通知（生活習慣病治療中断及び歯科未受診者）の送付に伴う事業の周知について（依頼）
 - 後期高齢者医療における窓口負担割合の見直しに伴う配慮措置の終了について
 - 医療事故情報収集等事業「医療安全情報 No.225」の提供について
 - 令和7年度在宅医療参入促進セミナーの開催について
 - 病原体定点における病原体検出状況の公表について
 - 保護者の思想信条等に起因する医療ネグレクトへの対応について（令和6年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業の報告書の内容及びそれを踏まえた取組）
 - 令和7年「老人の日・老人週間」の実施について
 - 令和7年度医療安全セミナー・ワークショップの周知について（通知）
 - 独立行政法人医薬品医療機器総合機構が実施する健康被害救済制度に関する集中広報の周知について（協力依頼）
 - 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知について
 - 美容医療に関する取扱いについて
 - 令和7年度 東京都地域医療構想調整会議

- 「在宅療養ワーキンググループ」開催における傍聴の御案内について
- 診療報酬請求に関する審査の一般的な取扱いについて（情報提供）
 - 高齢者施設等が定める協力医療機関の要件に係る取扱いについて（「令和6年度介護報酬改定に関する Q&A（Vol.16）（令和7年9月5日）」の送付について）
 - 転院搬送における救急車の適正利用の推進について（依頼）
 - 令和7年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業」における「本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」の実施について
 - コロナ後遺症オンライン研修会の開催について
 - 日本医師会「健康食品安全情報システム」事業へのご協力について
 - 令和7年度「日本医師会生涯教育講座」第Ⅱ期（10月）の開催について
 - 医療機関等におけるスマートフォンでのマイナ保険証の利用開始について
 - 令和7年度東京都医療機関デジタル化推進セミナー（第2回応用編）の開催について
 - カスタマーハラスメント防止対策推進事業等の周知に係る御協力をお願いについて
 - 令和7年度 HIV/AIDS 症例懇話会の開催について
 - 結核予防講演会開催の周知について
 - 令和6年度診療報酬改定が医療機関に与えた影響に関するアンケート調査結果について
 - 医療機関等の窓口におけるスマートフォンでのマイナ保険証への対応に関する疑義解積資料の送付について
 - 疑義解積資料の送付について（その29）
 - 第7回禁煙推進学術ネットワーク学術会議開催のご案内について
 - 医療廃棄物の回収料金等に関するアンケート調査の実施について（協力依頼）
 - 「かかりつけ医機能報告制度にかかる研修」に係る日本医師会ホームページへの掲載に

ついて

- 「かかりつけ医機能報告制度にかかる研修」修了申請承認作業について
- インフルエンザに係る注意喚起について
- 最低賃金の引上げに関連した支援の拡充について（周知依頼）
- 令和7年度東京都医療機関等物価高騰緊急対策支援金の延長について（通知）
- 医療事故情報収集等事業「医療安全情報 No.226」の提供について
- 「後期高齢者医療制度における一部負担金の負担割合の見直しに係る費用の請求に関する診療報酬明細書等の記載について」の廃止について
- 後発医薬品の出荷停止等を踏まえた診療報酬上の臨時的な取扱いについて
- 後期高齢者医療制度の窓口負担割合の見直しに伴う配慮措置の終了に関するリーフレットの送付について
- 薬剤耐性（AMR）対策に関する教育啓発事業へのご協力について
- 令和7年度 ぜん息治療講演会の開催について
- 令和7年度【第3回】児童虐待対応研修の開催について
- 医師会会員情報システム MAMIS および日本医師会生涯教育 on-line におけるログイ

ンIDの関係について（生涯教育制度関係）（その2）

- 「日本医師会医療事故調査費用保険」について（保険適用対象の拡充）
- 「医療扶助のオンライン資格確認導入に係る医療機関等助成事業」の申請期限の延長について
- 医療 DX 推進体制整備加算等の要件について（再周知）
- 「第1回 TOKYO 総合診療シンポジウム」について（周知）
- 「2026 年版日医君卓上カレンダー」プレゼントに関する周知へのご協力をお願い
- ショート動画に関する周知並びに SNS などでの拡散に関するご協力のご依頼
- 国内外における重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生状況（情報提供）について
- 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスワクチンの供給等について
- 感染症法に基づく医師の届出に対する周知について
- 東京都インフルエンザ情報の発行について
- 令和7年度臓器移植普及推進月間及び臓器移植推進国民大会の実施について
- 令和7年度「東京都感染対策リーダー養成研修事業」公開講座（オンデマンド研修動画配信）のご案内について

医師会の動き

令和7年10月17日現在

| | | | |
|-------|-----|--------|-----|
| 医療機関数 | 188 | 病院 | 27 |
| | | 医院・診療所 | 161 |
| 会 員 数 | 488 | 正会員 | 204 |
| | | 準会員 | 284 |

会 議

| | |
|-------|--------------------------------|
| 9月9日 | 令和7年度第2回西多摩地域脳卒中医療連携検討会（包括ケア班） |
| 9日 | 定例理事会 |
| 17日 | 在宅医療推進強化事業会議（西多摩在宅安心サポート事業） |
| 24日 | 移動理事会 |
| 10月9日 | 在宅難病調整委員会 |

| | |
|-----|--|
| 14日 | 2025年度第1回ICTシステム整備委員会兼にしたまICT医療ネットワーク協議会 |
| 14日 | 定例理事会 |
| 15日 | 在宅医療推進強化事業会議（西多摩在宅安心サポート事業） |
| 21日 | 広報部会（会報編集） |
| 24日 | 令和7年度第2回西多摩地域脳卒中医療連携検討会（急性期班） |
| 28日 | 定例理事会 |
| 30日 | 在宅難病訪問診療（あきる野市・青梅市） |

講演会・その他

| | |
|------|-----------------|
| 9月1日 | 令和7年度第1回 西多摩医師会 |
|------|-----------------|

- 「地域包括ケアシステム推進講座」
2日 学術講演会 (Web)
『排尿障害病診連携Webセミナー in 西多摩』
座長：東京医科大学 泌尿器科学分野 主任教授 大野 芳正 先生
《講演1》
演題：「プライマリ・ケア×泌尿器科クリニックにおける頻尿のマネジメント」
演者：東青梅診療所 院長 武信 康弘 先生
《講演2》
演題：「間質性膀胱炎(IC)・膀胱痛症候群(BPS)の診断と治療」
演者：高木病院 泌尿器科 部長 穴戸 俊英 先生
4日 学術講演会 (Web)
『不眠症治療を考える会Webセミナー』
座長：ちひろメンタルクリニック 院長 三ツ汐 洋 先生
《講演》
演題：「不眠症診療の実践とその意義」
演者：杏林大学医学部精神神経科学教室 講師 櫻井 準 先生
8日 医療保険委員会
11日 法律相談
13日 糖尿病患者さんと糖尿病予備群の方のための「糖尿病1日教室」(於：公立福生病院)
講義1：「誰にでもわかる糖尿病の話」 高村内科クリニック 院長 高村 宏 先生
講義2：「食事療法の基本」 公立福生病院 管理栄養士 中出直子 先生
講義3：「糖尿病の運動療法」 高村内科クリニック トレーナー 寺本由美子 先生
17日 学術講演会 (Web、会場聴講)
座長：医療法人社団 新町クリニック 院長 神應 知道 先生
《講演》
演題：「高齢者施設におけるCOVID-19 mRNAワクチン研究の成果と今後の課題」
演者：富山県衛生研究所 所長 大石 和徳 先生
18日 「糖尿病合併症を理解するための勉強会(循環器専門医)」 Web
《講演》
演題：「糖尿病と循環器疾患～動脈硬化性疾患を中心に～」
演者：市立青梅総合医療センター 循環器内科部長 栗原 颯 先生
25日 西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」
講義1：「糖尿病の運動療法について」 高村内科クリニック トレーナー 寺本由美子 先生
講義2：「たんぱく質のとり方について考えましょう」 小松栄養士 (大聖病院)
栄養相談：木下栄養士 (市立青梅総合医療センター) 藤田栄養士 (羽村三慶病院)
26日 学術講演会 (Web)
座長：(医社) 仁成会 高木病院 院長 南 明宏 先生
《基調講演》
演題：「当地域における心不全治療の現状と課題」
演者：野本医院 院長 野本 英嗣 先生
《特別講演》
演題：「集中治療室から始める心不全の至適薬物療法」
演者：東京女子医科大学病院 循環器内科 准教授 南 雄一郎 先生
10月8日 医療保険委員会 (整備会)
9日 法律相談
9日 学術講演会 (Web)
『DURL Seminar in 西多摩』
《講演》
【座長】 公立福生病院 腎臓病総合医療センター 部長 中林 巖 先生
演題：「高齢2型糖尿病の治療を再考する～ツイミグという新たな選択肢～」

- 演者：市立青梅総合医療センター
内分泌糖尿病内科 副部長 大島 淳
先生
- 10日 学術講演会 (Web)
『糖尿病合併症マネジメントセミナー』
《講演1》
座長：公立福生病院 腎臓病総合
医療センター センター長 中林 巖
先生
演題：「MR過剰活性化へのアプ
ローチ～炎症・線維化への治療戦
略、臨床への活かし方～」
演者：虎の門病院 腎センター内
科 医長 山内 真之 先生
《講演2》
座長：柳田医院 院長 柳田 和弘
先生
演題：「多職種が協働して行う糖
尿病性腎症重症化予防」
演者：嶋田病院 糖尿病内科 内科
部長 赤司 朋之 先生
- 11日 糖尿病患者さんと糖尿病予備群の
の方のための「糖尿病1日教室」(於：
医師会館)
講義1：「誰にでもわかる糖尿病
の話」市立青梅総合医療センター
大島 淳 先生
講義2：「食事療法の基本」
〃 管理栄養士
木下奈緒子 先生
講義3：「糖尿病の運動療法」
高村内科クリニック トレーナー
寺本由美子 先生
- 15日 学術講演会 (Web、会場聴講)
『第23回西多摩高血圧カンファレ
ンス』
《特別講演》
座長：梅郷診療所 院長 江本 浩
先生
演題：「ナトリウム利尿ペプチド
を意識した高血圧治療」
演者：平光ハートクリニック 院長
平光 伸也 先生
《パネルディスカッション》
座長：市立青梅総合医療センター

循環器内科 部長 小野 裕一 先生
演題：「JSH2025改定を踏まえた
高血圧治療の最新線エンレストの
臨床応用を考える」

演者：こみ内科クリニック 古味
良亮 先生

- 16日 演者：市立青梅総合医療センター
循環器内科 医長 埴本 優太 先生
第23回西多摩医師会「臨床報告
会」(於：公立福生病院)

司会・座長：西多摩医師会学術部
長 松村昌治先生

《講演》

1. 「テニスボールにより外傷性緑
内障を来した1例」

市立青梅総合医療センター 眼科
寺松 龍 先生

2. 「当院で行っているLECS（腹
腔鏡内視鏡合同手術）について」
公立福生病院 外科 診療部部长
木全 大 先生

3. 「当院におけるMRI全身がん
検診DWIBS（ドウィブス）の運
用について」

公立福生病院 診療放射線技術科
野中 孝志 様

4. 「呼吸器外科における診療看護
師の導入と活動」

公立阿伎留医療センター 診療看
護師 阿部 努 様

呼吸器外科 部長 三浦 弘之 先生

5. 「頭痛の訴えは乏しかったが、
眼科診察により診断に至った巨細
胞性動脈炎の一例」

公立阿伎留医療センター 臨床研
修医 渋谷 惇徳 先生

リウマチ科 部長 立花 秀介 先生

6. 「訪問看護サービスにおける24
時間の電話対応、緊急時対応の実
態～救急搬送に頼らず、安心して
在宅療養が出来る環境を目指す～」

大久野病院訪問看護ステーション
齋藤 瑞穂 様

進藤医院 院長 進藤 幸雄 先生

- 21日 学術講演会 (Web)

『高血圧診療Webセミナー～新ガ

イドラインに基づく実践的アプローチ〜』

《講演》

【座長】奥多摩病院 院長 井上大輔 先生

演題：「非ステロイド型ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の降圧薬としての位置づけ〜高血圧管理・治療ガイドライン2025 (JSH2025) を考える〜」

演者：国際医療福祉大学医学部教授 国際医療福祉大学塩谷病院 病院長 腎臓・高血圧内科 佐藤敦久 先生

23日 西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」

講義1：「糖尿病と腎臓の関係について」市立青梅総合医療センター 松川加代子 先生

講義2：「脂質のとり方について考えましょう」三瓶栄養士（認定ケア・ステーションひより）

栄養相談：浜中栄養士（高木病院）

藤田栄養士（羽村三慶病院）

29日 学術講演会（Web、会場聴講）

『第40回西多摩心臓病研究会』

《講演》

【座長】公立福生病院 循環器内科部長 満尾 和寿 先生

演題：「医療の未来を形作るマルチモーダルAIの力〜心不全治療薬の医療経済の観点も含め〜」

演者：東京大学医学部附属病院 循環器内科 特任講師 小寺 聡 先生

役員出張

9月4日東京都地域医療構想調整会議「在宅療養ワーキンググループ」座長連絡会

5日 第2回多摩医学会役員会

19日 地区医師会長連絡協議会

19日 多摩ブロック医師会長連絡協議会〜会長・副会長連絡協議会〜

10月13日 日の出町合併70周年・町政施行50周年記念式典

14日 森村たかゆき事務所・都民ファーストの会「意見交換会」

17日 地区医師会長連絡協議会

19日 公立阿伎留医療センター創立100周年記念式典

23日 都議会自民党医療政策研究会・都医政連意見交換会・懇談会

25日 第99回多摩医学会講演会

27日 休日全夜間診療事業実施対策協議会

【入会会員】（正会員）

氏 名 小澤 るり子

勤務先 （医社）睦和会 下奥多摩医院

出身校大学 杏林大学 平成2年3月卒

【退会会員】（正会員）

氏 名 小澤 昌彦（死亡）

勤務先 （医社）睦和会 下奥多摩医院

氏 名 井村 洋一

勤務先 （医財）暁 あきる台クリニック

氏 名 永井 信也

勤務先 （医財）暁 あきる台クリニック

【入会会員】（準会員）

氏 名 黒釜 遼平

勤務先 公立福生病院

出身校大学 新潟大学 令和7年3月卒

氏 名 山内 優美

勤務先 公立阿伎留医療センター

出身校大学 杏林大学 令和4年3月卒

氏 名 池田 敦

勤務先 公立阿伎留医療センター

出身校大学 日本大学 平成12年3月卒

氏 名 河野 充

勤務先 公立阿伎留医療センター

出身校大学 杏林大学 平成21年3月卒

氏 名 渋谷 惇徳

勤務先 公立阿伎留医療センター

出身校大学 滋賀医科大学 令和7年3月卒

氏 名 長谷川 乃衣
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 福島県立医科大学
令和7年3月卒

氏 名 河崎 啓悟
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 旭川医科大学 令和6年3月卒

氏 名 中島 翔吾
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 日本大学 平成29年3月卒

氏 名 緒方 毅
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 日本大学 平成27年3月卒

氏 名 加藤 廉
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 旭川医科大学 平成29年3月卒

氏 名 大久保 具明
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 日本大学 平成6年3月卒

氏 名 片岡 良孝
勤務先 公立福生病院
出身校大学 防衛医科大学校 平成2年3月卒

氏 名 菊永 裕陽
勤務先 公立福生病院
出身校大学 岐阜大学 令和5年3月卒

氏 名 岸本 慶太郎
勤務先 公立福生病院
出身校大学 慶応義塾大学 令和7年3月卒

氏 名 齊藤 翔
勤務先 公立福生病院
出身校大学 日本医科大学 平成27年3月卒

氏 名 佐藤 みのり
勤務先 公立福生病院
出身校大学 埼玉医科大学 令和3年3月卒

氏 名 井村 洋一
勤務先 (医財) 暁 あきる台病院
出身校大学 金沢大学 平成1年3月卒

【退会会員】(準会員)

氏 名 小澤 るり子
勤務先 (医社) 睦和会 下奥多摩医院

氏 名 猪股 茂樹
勤務先 (医社) 真愛会 真鍋クリニック

氏 名 本村 光明
勤務先 (医社) 久遠会 友田クリニック

氏 名 唐鎌 淳
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 平塚 美由起
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 橋本 萌詠美
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏 名 古川 理香子
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏 名 武田 勝元
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏 名 植野 柚奈
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏 名 増尾 有紀
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏 名 鈴木 俊夫
勤務先 (医社) 新町クリニック

氏 名 植松 亜樹
勤務先 公立福生病院

氏 名 北川 真吾
勤務先 公立福生病院

氏 名 小濱 清隆
勤務先 公立福生病院

氏 名 原 佑輔
勤務先 公立福生病院

【法人代表者変更】

(医社) 睦和会 下奥多摩医院
(新) 理事長 小澤 一彦
(旧) 理事長 道佛 晶子

【管理者変更】

(医社) 睦和会 下奥多摩医院
(新) 小澤 るり子
(旧) 小澤 昌彦

【氏名変更】

新 小林 保貴
旧 村田 保貴
勤務先 公立阿伎留医療センター

訃 報

福生市 (医社) 光輝会 ひかりクリニック
理事長 土屋 輝昌 先生 御母堂様

土屋 和子様 (享年91歳)

去る令和7年8月27日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

お 知 ら せ**保険請求書類提出締切日**

令和7年12月 (11月診療分) **12月8日 (月)** 正午迄
令和8年 1 月 (12月診療分) **1月7日 (水)** 正午迄
(締切日以前の提出も可能です)

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克巳先生による法律相談を
毎月第2木曜日 午後2時より実施いたします。
お気軽にご相談ください。

◎相 談 日 **11月13日 (木)**
12月11日 (木)

◎場 所 西多摩医師会館
◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相 談 料 無料 (但し相談を超える場合は別途)
◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば**『カドゥケウス』**

絵画教室で知り合った梶光夫 (元は歌手で現在はジュエリーアーティスト) 作、カドゥケウスのブローチです。

ギリシャ神話ではエルメスの杖として平和や調停の象徴とされていましたが、欧米では誤って医療の象徴として使われることがある

(本来の医療の象徴は杖一本に蛇1匹の翼のないアスクレピオスの杖で、WHOのロゴなどに使われている)。

アメリカ陸軍医療部隊が採用した事で一般化された。

ワタナベ整形外科 渡邊哲哉

あ と が き



「今年の夏は、例年に比べてとても暑い」

ここ数年、毎年夏になると聞く言葉です。今年も、6月の下旬から10月の上旬にかけ

て盛んにテレビやネットニュースなどから聞こえてきました。確かに今年も暑かったと思います。しかしながら、少し、違和感も感じておりました。暑いのですが、その暑さの質がこれまでと違う感じがしました。何が違うのか？ 明確に数字などで説明することはできません。肌感覚や日常生活の中での事象です。

医院の入り口扉が軋む件

私の医院の入り口扉は、片開きの扉になります。少し大きめで、アルミフレームで、中は強化ガラスが組み込まれております。その扉が、6月中旬くらいから、開けたり閉めたりで軋むようになってしまいました。かなり軋んでしまい、開けづらくなることもありました。最初は何故そうなるのか、首を傾げておりました。家内とは、暑さのせいで扉が歪んでいるのではないかと、とか、もう20年選手だし、老朽化なのでは？ などと訝しがっておりました。しかしながら、台風が来たりで少し気温が落ち着いたりすると（普通の夏の気温に戻ると）、途端に扉の軋みはなくなりスムーズに扉の開閉ができるようになります。一度のみならず、毎回改善するので、間違いなく暑さのせいで扉が歪んでいたのだと思います。現在は、軋みはなくなりました。

医院前の植物がすぐに枯れてしまう件

医院の周りは、園芸屋で花苗を買ってきて

プランターに植えています。少しでも緑を増やしたり、賑やかにしたいというのもあります。例年は、夏の花苗を5月から7月に植えると、ほぼほぼ9月下旬までは何もせずに花が咲いていてくれました。今年は、植えても比較的早くに枯れてしまい、花苗が長持ちしません。私の植え方や育て方が悪いのかと思います、いろいろと変えてやってみましたが、同じでした。そういった中、ネットで調べると、午前中に水やりをすると昼間になると鉢の中の水がゆだってしまっ、根が腐っていくのではないかという記事を見つけました。それ以来極力夕方以降に水やりをするようにしましたが、暑さのせいですぐに乾いてしまい、昼間にも水をやらざるをえなくなりました。結局イタチごっこで、いつもの年よりも花苗の寿命は短くなりました。

蚊がいない件

今年の夏は蚊に刺されませんでした。ほとんど刺されませんでした。おかしいと思いつつも、刺されないで気にしないでおりました。そうしたら、9月中旬以降盛んに刺されるようになりました。どうも蚊の活動できる気温を逸脱していたようです。蚊にとっては、活動限界を超えた気温の夏だったようです。

このように、肌感覚的に事象的に、暑さの質が例年とは違っていたと感じました。一段強烈だったのだと思います。さて、来年は、さらに強烈な夏になり、日本は四季の国から二季の国になっていってしまうのでしょうか。とても心配です。

永仁醫院 古川朋靖

一般社団法人 西多摩医師会

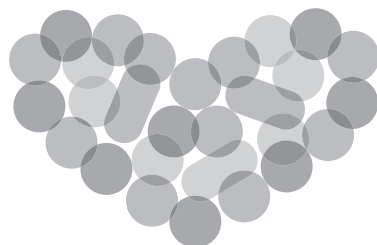
令和7年11月1日発行

会長 進藤幸雄 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会

三ツ汐 洋 菊池 孝 奥村 充 馬場 一徳 小高 哲郎
近藤 之暢 古川 朋靖 神應 知道 中野 和広 古畑 謙

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993



AISEI

誰もがすこやかに、笑顔でいられる毎日を。

全国400店舗以上の調剤薬局ネットワークと
業界トップクラスの医療モール開発実績

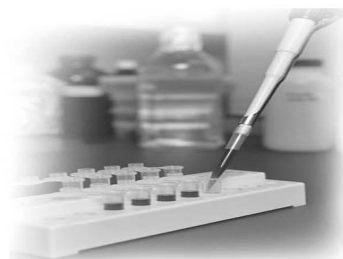


アイセイ薬局

生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

ひとりひとりの健康で豊かな社会生活を掲げ
地域に根ざした検査所として歩んできました。
高度な技術と最新の設備で地域医療の
さまざまなニーズに対応しています。



登録衛生検査所

株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢 309-8

TEL; 04-2964-2621 FAX; 04-2964-6659

URL; <http://www.e-musashi.co.jp>